



法制化の動きが一層と進んだ2月であった。2月4日には与党政策責任者会議で、与党協同労働法制化に関するワーキングチーム(以下、ワーキングチーム)田村憲久座長より労働者協同組合法(仮称)に関する説明がされ、岸田文雄自民党政調会長、石田祝稔公明党政調会長が出席するなか、承認された。それを受けて2月27日には協同組合振興研究議員連盟(以下、議連)の役員会が開催され、河村建夫会長出席のもと、篠原孝事務局長の進行で榊屋敬悟幹事長代理(ワーキングチーム座長代理)より法案骨子が報告・説明がされ、議連として本格的な検討に入り、各党の合意と国会提出を目指すことが確認された。一歩ずつ前進しており、緊張が日々高まってきている。

2月には連合会主催の協同労働リーダー基礎研修(3回シリーズの最終回)が2月6~7日に東京で開催され、センター事業団地域福祉事業所Workers Net Rings(笹塚)を訪問し、多くのメンバーがアルコール中毒や精神障害、ホームレスやニートひきこもりの若者など多様な困難を抱えながら、共に働く姿を学ぶ。課題図書であった「べてるの家」の『非援助論』や、鑑賞した映画「人生ここにあり」と重なる、多様な困難を抱えた若者たちが、話し合いを通じて、自らの働き方や事業展開、地域活動、労働条件などを話し合っていることに、自分た

ちの現場での話し合いのあり方を考える。また近隣の笹幡保育室と連携し、清掃など保育補助業務を通じて変化・成長していく姿に、参加したリーダーたちは「NO排除、NO支援、NO援助」の「ともに働くとともに生きる」を実感した。

地域労協会議 in 愛知(2月14~15日)の愛知高齢協のケアセンター保見の話は先月号の巻頭言で書かせてもらったので割愛し、それ以外に訪問した無門福祉会青いそらと共同連による資源カフェの話に記載したい。青いそらでは自然栽培パーティと出会い、自然農法を通じて障がい者が野菜づくりに取り組み、畑を借りたり農業を教えてもらったり農機具を借りたりなど、徐々に関係する人が増え、気が付くと障がい者の周りに多くの関わる人が増え、その人が地域で暮らしていくうえで支えとなっている説明に、驚きと同時に感銘を受ける。資源カフェでは、新聞紙や空き缶など資源を20種類に分別して集め、それを売り差益で事業を成り立たせ、カフェやレストラン、販売など多様な人たちが集う場とし、働く障がい者の周りに多くの方と接する機会を作っている。どちらも地域で資源や労働やお金が循環するしくみを作ろうとしており、今後の地域密着型で地域課題解決の仕事おこしのヒントをいただく。

法制化に向けて、協同労働リーダー基礎研修や地域労協会議で、協同労働を学

ぶ重要な機会であり、今後もより進化させて取り組んでいきたい。法制化しても形だけ協同労働なども起こる可能性があり、先駆的に40年取り組んできたワーカーズコープが、自分たちの協同労働の

実践を評価しながら発信し、地域で協同労働の働き方や生き方を語ることで、さらなる地域の方々の共感や、新たなワーカーズ運動を作り出していく。